

報道関係者各位

2011 年 8 月
株式会社主婦の友社

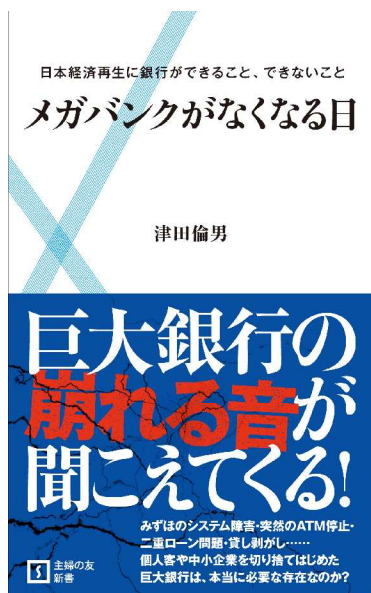
旧態依然のメガバンクの実態を白日の下にさらけ出す
主婦の友新書 『メガバンクがなくなる日』

津田倫男:著 定価 820 円(税込み)

株式会社主婦の友社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:荻野善之)は、2011 年 8 月 6 日、主婦の友新書『メガバンクがなくなる日』 津田倫男:著、定価 820 円(税込み)を発売いたします。

東日本大震災の直後に起きた「みずほのシステム障害」の裏側にあったのは、旧三行の確執。再編されたとはいえ、旧態依然のメガバンクの実態を白日の下にさらけ出す。

< 担当編集より >



3.11で日本経済は大きな負荷を背負った。そして、経済の血といわれる金融を生業とする銀行も、大きな節目に遭遇している。「メガバンクがなくなる日」など、来るはずがないとお思いだろうが、十分にありうるシナリオなのだ。では、なぜなのか。本書では、日本のメガバンクの成り立ちからそれを読み解き、内側に居た人間にしかわからない実情をわかりやすく伝える。一章・銀行は本来の機能を果たしているか 個人を切り捨て始めた銀行 中小企業も見捨てている現状 二章・顧客支持が減っている銀行の歴史 自ら作った不良債権に沈む90年代 新たなビジネスモデルを生み出せなかった2000年代 三章・職場としての銀行の功罪 麒麟を驚馬にする、を地で行く 本当は潰しのきかない銀行員 四章・銀行なんか行かせるな 決してない「敗者復活」 五章・なんのための銀行か 雨の日に傘を取り上げる銀行の今昔 六章・銀行に代わる存在、回歸すべきモデル ベンチャーキャピタルとイスラム金融

著者プロフィール: 津田倫男(つだ・みちお) 企業アドバイザーを行うフレームワーク・マネジメント代表。日米欧銀行三行に20年勤務。独立後10年ほど、あるべき銀行像を金融機関にも提言。スタンフォード大学で銀行論を履修(MBA)、青山学院大学専門職大学院で銀行マーケティングも講義(04年~09年)。

書誌タイトル: 『メガバンクがなくなる日』

著者: 津田倫男

定価: 820 円(税込み) ISBN: 978-4-07-279249-0 サイズ: 新書判 192 ページ 発売日: 2011/8/6

■ 株式会社主婦の友社の概要 ■

・社名: 株式会社 主婦の友社

・代表取締役社長 荻野 善之

・URL: <http://www.shufunotomo.co.jp/>

・所在地: 東京都千代田区神田駿河台 2-9

この件に関するお問い合わせは下記担当までお願いいたします。

株式会社主婦の友社 広報宣伝課 酒見・長友・大塚 TEL 03-5280-7577 FAX 03-5280-7578